

日本人の新しい世代を代表する作曲家、ニューメディア・アーティスト。国際的に評価されており世界各地で活躍。斬新で刺激的な作品を新たなテクノロジーと関連させて発表している、アメリカ、ボストンのニューイングランド音楽院、そして、ドイツのベルリン芸術大学、ベルリン工科大学などにて学ぶ。作曲をアメリカにて、アール・ブラウン、ロバート・コーガン、ルーカス・フォス、ドイツでは、ディーター・シュネーベル、フランスではIRCAMにてトリスタン・ミュライユとブライアン・ファニーホウに学ぶ。

主な賞歴は、ボストン・シンフォニー・オーケストラ・フェローシップ、タングルウッド音楽祭より、クーセヴィツキー賞、ワシントン州のマルゼナ国際作曲コンペティションにて第1位、ドイツにてベルリナー・コンポジション・アウトラーゲ1994、パリのユネスコで行われた、IMC国際作曲家会議にて入選、フランス政府よりDICREAM、ドイツ、ベルリンのミュージック・シアター・ナウ・アワード2008にて受賞、フランス、バン・ニューメリック4、アンガン・デ・バン・デジタル・アート国際フェスティバルにて、「OFQJダンス・ニューテクノロジー賞」を受賞などが挙げられる。作品は世界各国の音楽祭、レゾナンス/IRCAM、タングルウッド音楽祭、ICC、SONAR、Haus der Kulturen der Welt、ISEA、NIME、ヴェネツィアビエンナーレなどにて演奏されている。

1995年、マルチメディア・オペラ作品、“NADA”がベルリンのシャウルシュピール・ハウスにて演奏される。同年より、IRCAMにてコンピューター音楽を研鑽し、その後、研究員として、ジェスチュアル・インフォーマティックの開発に携わる。2000年、東京フィルハーモニーによりオーケストラ作品”ResonanceII”がオーチャード・ホールにて初演された。2003年、IRCAMのレゾナンスのフェスティバルでポンピドゥー・センターにてソロ・リサイタルを行い好評を得る。2006年、イギリスのAVフェスティバルより委嘱され、作品は話題となった。現在はIRCAMにてアーティフィツシャル・マウスのプロジェクトを行っている。2009年にはイタリア、第53回ヴェネツィアビエンナーレに招待された。

作品は、アメリカ、イギリス、イタリア、ドイツ、フランス、オランダ、ウクライナ、スペイン、カナダ、ポルトガル、ポーランド、スロベニア、ルーマニア、日本などにて演奏されている。作品は、ドイツのエディション・ヴァンデルヴァイザーより出版、“Onomatopoeia and Montage”は、ドイツのアカデミー・デア・クンストより、“Temps tresse III”はALM RecordsよりCDに収められている。

Suguru Goto
IRCAM
1, place Igor Stravinsky
75004 Paris
France